

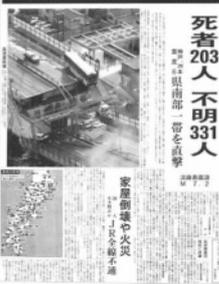
# 神戸新聞

保存版

## 神戸新聞の100日

日本の近代都市を初めて襲った激震の第1撃は、わずか1秒だった。淡路島西岸で起きた破断波は秒速2ないし3で兵庫県南部を北東に突き抜け、人を、まちを、暮らしを引き裂いた。1995年1月17日午前5時46分。阪神・淡路大震災で本社屋を失った神戸新聞の戦いは、ここから始まった。大正期の米騒動での類火、昭和の戦災と2度社屋を喪失しながら新聞発行を続けた伝統は、未曾有の大災害の中でも生きていた。それは、地域の「いのち」と「暮らし」を守る戦いだった。

### 近畿で大地震



死者203人 不明331人



本社崩壊  
新聞は24時間眠らない。あの日の未明も、警備員が保安要員が、コンピューターチームでシステム部員が、社会部と写真部の記者が火事現場で、それぞれ仕事をしていた。販売店では朝刊配達準備を整えていた。朝の夢を破る。地鳴りを伴う激しい揺れに、J・R三宮駅前の神戸新聞会館は苦悶するかのようになり、直ぐに倒壊した。宿直の社会部デスクと記者は、いすから振り落とされた。警報器が鳴り響き、窓ガラスが砕け散り、天井は落ち、柱にも壁にも無数の亀裂が走った。

父と母  
震災3日目の夜、論説委員長は神戸市東部の小学校にいらした。遺体安置所に充てられた教室で父の顔を見送って、父のその日、一本の社説を書いた。見出しは「被災者になって分かったこと」

再構築  
京都新聞の協力で、神戸新聞は、震災3日目の夜、論説委員長は神戸市東部の小学校にいらした。遺体安置所に充てられた教室で父の顔を見送って、父のその日、一本の社説を書いた。見出しは「被災者になって分かったこと」

本社崩壊  
新聞は24時間眠らない。あの日の未明も、警備員が保安要員が、コンピューターチームでシステム部員が、社会部と写真部の記者が火事現場で、それぞれ仕事をしていた。販売店では朝刊配達準備を整えていた。朝の夢を破る。地鳴りを伴う激しい揺れに、J・R三宮駅前の神戸新聞会館は苦悶するかのようになり、直ぐに倒壊した。宿直の社会部デスクと記者は、いすから振り落とされた。警報器が鳴り響き、窓ガラスが砕け散り、天井は落ち、柱にも壁にも無数の亀裂が走った。

父と母  
震災3日目の夜、論説委員長は神戸市東部の小学校にいらした。遺体安置所に充てられた教室で父の顔を見送って、父のその日、一本の社説を書いた。見出しは「被災者になって分かったこと」

再構築  
京都新聞の協力で、神戸新聞は、震災3日目の夜、論説委員長は神戸市東部の小学校にいらした。遺体安置所に充てられた教室で父の顔を見送って、父のその日、一本の社説を書いた。見出しは「被災者になって分かったこと」

あれから15年  
神戸新聞社は、毎年1月17日、震災社員が黙って、正午、災難犠牲者の霊祈りを捧げた。社員食事を兼ねた。社員食事を兼ねた。社員食事を兼ねた。

阪神・淡路大震災から15年

## 神戸新聞の7日間

～命と向き合った被災記者たちの闘い～

神戸新聞の記者たちが、本社崩壊という危機に直面しながらも、がれきりの中で新聞を作り続けた闘いの模様を描くドキュメンタリードラマが、関西テレビ系全国ネット放送されます。

2010年1月16日(土)  
午後9時～11時10分放送

出演  
櫻井翔 吹石一恵 萩原聖人 田中圭  
小野武彦 山本圭 高嶋政宏 内藤剛志

### 坂田彪さん

あの震災で、自宅が倒壊した家族が傷つく中で記者として神戸新聞の記者達。そして新聞の配達先を失った販売店主。記者が命をかけて書いた記事、目を真つめて読んでいた。私に真つめられた。私に真つめられた。私に真つめられた。

### 八木博嗣さん

70年以上の長きにわたり一貫して愛顧を頂いている当社にとって、震災とその後の復興のための大きな試金石であり試練でもありました。

### 当時を振り返って、そしてこれから

神戸新聞の記者たちが、本社崩壊という危機に直面しながらも、がれきりの中で新聞を作り続けた闘いの模様を描くドキュメンタリードラマが、関西テレビ系全国ネット放送されます。

神戸新聞の100日

# 震災から15年 被災地は今

写真で見る被災地の復興



神戸市灘区深江本町で約600mにわたって壊滅しになった阪神高速道路神戸線。1年8か月後の1996年9月に全線開通した



# 1999



神戸港中突堤では岸壁の内側が陥没し、海水が流入した。修復後は、ウォーターフロントの賑いの場として市民に親しまれている



震災発生当日の1月17日、夜空を赤く染める炎は兵庫、長田区の住宅密集地を焼き尽くした。神戸市中央区のビーンズブリッジから



JR三ノ宮駅前にあった神戸新聞会館は取り壊し。跡地には2006年10月、ファッション、飲食、シネマ等の複合ビル、ミト神戸が誕生した



## 学ぶ

- ▶震災15年展「神戸新聞カメラマンの証言」
- ▶「D-file ひょうご防災新聞 Disaster file」の展示
- ▶当時を証言する「物」やパネルなどの展示
- ▶震災直後の市民の張り紙やビラなどの展示
- ▶震災関連書籍の展示・閲覧

## 伝える

感謝や決意のメッセージ、子どもたちに送るメッセージなどを来場者から募集し、集まったクズノキを植えた展示物に貼り付けて紹介

## 守る・備える

- ▶AEDを使用した救命救急処置体験
- ▶傷害食品を使用した調理法の紹介

# 震災15年 未来に伝えたい

～安全・安心に暮らすために～

震災15年という節目に今一度、震災を見つめ直し、防災・減災の視点から学んだこと、伝えたいことを次代に継承していくことは、わたしたちの使命です。より安全で安心な暮らしを目指して、本展では、「伝える」をメインキーワードに、「学ぶ」「防ぐ」「守る・備える」などのコーナーで多彩な情報を発信します。

日時 1月15日(金) 13時～17時  
16日(土)、17日(日) 10時～17時  
会場 デュオドーム (JR神戸駅西側)

## 防ぐ

- ▶プロから見た家のチェック方法と改修方法の紹介、産業診断受付コーナー
- ▶防災の取り組みやボランティア活動の紹介
- ▶ファミリー向けコーナー(カワダのダイヤブロックで遊ぶ)

## ステージイベント

- ▶16日・17日 AEDを使用した救命救急処置講習、傷害食品を使った料理の紹介
  - ▶17日 舞立舞子高校環境防災科の活動紹介
- 会場では、震災当時の映像、つがしの神戸の映像をモニターで紹介し

## 新聞パネル展 1995年1月17日～ 神戸新聞が 伝えたこと

日時 1月16日(土)、17日(日) 11時～20時

会場 フレッツ@メディアスタジオ (ミト神戸6階メディアフロア)

神戸新聞社は震災で大きな被害を受けたものの、多くの方の力を借りて新聞発行を続けました。当時の記者たちは、苦しみ悲しむ被災者を前に葛藤しながらも、「記録して伝えていくことに意義がある」と信じてレンズを向け、ペンを走らせた。それらの写真や記事も、社屋があった場所から発信します。

問い合わせ 078-251-7502 (受付時間)  
050-3757-4227 (土日祝日)